

太陽誘電株式会社
2022 年3月期第2四半期決算説明会 質疑応答要旨
(2021 年 11 月5日開催)

【実績】

Q1. 第2四半期の MLCC の受注推移と、今後の方向性は。

A1. 前月比で7月は減少、8月が微減、9月も減少した。中華圏スマートフォンの在庫調整や自動車のサプライチェーンの制約による影響のため、前四半期と比較して受注が減少した。第3四半期もさらに受注が減少する可能性があるが、受注残が高水準なのでそれに対応していく。

Q2. 第2四半期の MLCC の売上が8月時点の計画を下回った一方、在庫の増加は計画を上回っている。生産増が売上に繋がらなかった要因は。

A2. 新型コロナウイルスの影響により、マレーシアの工場で稼働制限を受けたことが MLCC の売上が目標に届かなかった要因。一方、マレーシア以外の生産拠点では稼働を上げて自動車向けなどの在庫を増やしたが、これはマレーシアの工場の代替生産ではないため、第2四半期の売上には結びつかなかった。

Q3. 第2四半期の業績について、8月時点の計画と実績との違いは。

A3. 売上高は 888 億円で、計画を 24 億円下回った。マレーシアでの稼働制限もあり売上は未達となったが、営業利益は計画を上回った。その主な要因は3つで、1つめは在庫を 30 億円増やす予定だったが、56 億円積み上げたこと。固定費の増加は 15 億円で、計画に比べて 10 億円程度抑制できた。また、為替は1米ドル 109 円前提だったが実際は 110 円となり、6 億円ほどの円安効果があった。

Q4. 前四半期比で第2四半期に MLCC は増収したが、用途分野別の増収への寄与度は。

A4. 全用途分野で増収となった。

【今後の見通し】

Q5. 期末に向け、在庫をどのように計画しているのか。また、第3四半期、第4四半期の稼働率の前提は。

A5. 第3四半期末は全体で 30 億円程度の在庫増を計画。第4四半期末は在庫の増減はない前提である。MLCC の稼働率は第3四半期で 95%程度を計画し、第4四半期は下がる見込み。

- Q6. 太陽誘電の在庫は適正水準か。また、第4四半期は在庫を積まない計画だが、下期や来期の需要を考えた際、第3四半期末で在庫は適正な水準になっているのか。
- A6. 売上増加に伴い必要な在庫量が上がっていることに加えて、BCP を考慮して第3四半期も在庫を積み上げ、第3四半期末の在庫は受注等に対して十分対応できる水準になると考えている。第4四半期については現時点では在庫を積まない前提としているが、来期の需要動向を見ながら判断する。
- Q7. 現在受注が落ちている背景は。今後、どのように受注が回復すると考えているか。
- A7. 主にスマートフォンと自動車の受注が落ちている。スマートフォンにおいては、中華圏を中心に半導体などの部材調達難やサプライチェーンの制約による生産への影響、また、販売台数の伸び悩みによって在庫が未消化となっている影響が考えられる。一方、自動車も部材調達やサプライチェーンの制約はあるが、実需は強い状態が続いている。どちらも、第4四半期には回復してくると見ている。
- Q8. 受注の調整は一時的なもので、来期の第1四半期に向けて稼働は上げていくのか。設備投資計画にも変更はないのか。
- A8. 稼働は上がっていくと見ており、設備投資や能力増強は計画通りに進めていく。
- Q9. 第3四半期の MLCC の用途分野別の動きは。
- A9. 情報インフラ・産業機器向けが増加、通信機器向けは減少、民生機器向け、情報機器向け、自動車向けは第2四半期とほぼ同水準と想定している。
- Q10. 第3四半期にかけてインダクタが減収する見通しだが、用途別の動きは。
- A10. 前四半期に対して通信機器向け以外が減収すると見ている。
- Q11. 下期に上期より大きな値下がり前提が入っている。価格プレッシャーが強くなっているのか。それとも、定期的な価格改定を考慮しているのか。
- A11. 下期は、来年の価格交渉等の影響を含めた前提となっている。上期は値下がりが緩やかだったため、比較するとやや値下がりが大きくなる見込みである。

【その他】

- Q12. 新型コロナウイルスの影響で第2四半期にマレーシアの工場で受けた稼働制限は。また、現在の稼働状況は。
- A12. マレーシアの国全体での感染拡大により、当社の工場も8月末から9月10日まで稼働が停止された。現在工場のある地域では感染拡大は沈静化し、第3四半期の稼働に大きな影響はないと見ている。

Q13. スマートフォン、自動車の顧客の在庫水準をどう見ているか。

A13. スマートフォンは、コロナ禍以前と比べると在庫は高水準であり、やや過剰感があると見ている。自動車も通常と比べると高水準だが、過剰だとは思っていない。

※当資料に記載されている、当社(太陽誘電株式会社、および当社グループ)に関する計画、業績見通し、戦略、確信等のうち、将来の記述をはじめとする歴史的事実ではないものは、すべて現在、当社が入手している情報に基づいて行った予測、想定、認識等を基礎として記載しているものであり、その性質上、客観的に正確であるという保証、ならびに将来その通りに実現するという保証はありません。実際の業績は、数々の要素により、現状の見通し等とは大きく異なる結果となりえ、かつ、当社が事業活動の中心とするエレクトロニクス市場は変動性が激しいことから、当資料に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。